生徒の皆さんへ

令和２年度がはじまり、臨時休校開始からはや一か月が経過しました。新型コロナウイルスの猛威は留まるところを知らず、おそらく現代を生きる誰もがかつて経験したことのない社会情勢となり、つい最近まで TV 等で活躍していた著名人が亡くなるなど、生命の危機を実感する目に見えない恐怖に包まれています。なかなか収束の糸口が見えない状況ですが、気持ちをしっかりと持って日々の生活を送ってください。

今回の臨時休校によって、生徒の皆さんは多くのモノを失うことになりました。まず時間、日常の学習活動の遅れは計り知れないものがあり、特に３年生の皆さんにとっては進路不安が大きく募ることと思います。また、運動部の皆さんは、情熱をかたむけ、総体予選に向けて頑張ってきたことと思いますが、今回、全国高校総体の中止を受け、県下一斉に各種目が地区・県予選を中止しました。今後、予定されている各種大会も開催の見通しが立たず、文化部の各種活動も同様の状況であります。今まで情熱を傾け積み上げてきたことが発揮できないことほど悔しいことはないし、やり場のない憤りや寂しさは察するに余り有るものがあります。

ですが見方を変え、日本の 10 年を振り返ってみると、東日本大震災や熊本地震、そして毎年のように発生する豪雨被害、巨大化する台風被害などで、多くの人命と社会や個人の財産が失われ、そしてモノばかりでなくその場で生活をしていた数々の思い出や風景をも失われてきました。そのような試練が繰り返される中、我々は耐えしのぎ助け合いながら生活を再建し、大変な苦しみと苦労を乗り越えてきました。イスラムの世界に、「インシャアッラー」という言葉があります。これは、アラビア語で「神の思し召し」という語意で、我々の運命は神の御心によって定められ、人間が自分たちの未来を自分たちの意志でコントロールできるのは思い上がりであるという意味だそうです。たとえば自然の猛威を目の前にしたとき、人間ができることには限界があり、多くの試練を受け入れざるをえません。ですがこの言葉の真意は、たとえ試練が幾度となく繰り返され、そのたびに打ちひしがれる結果になったとしても、それを何度も受け止め、苦しみながらも前を向いていくことが自分を乗り越えていくこと、一回りも二回りも人間的に成長していくことだと言っています。まさに今の皆さんのことを言っているのだと思います。

ある学者がコロナウイルスの感染拡大を防止するために一番重要なことは何かの問いに、「本気の覚悟」だと答えました。本気も覚悟もとらえ方には温度差がありますが、感染が拡大している、人がいとも簡単に亡くなってしまう、目に見えない感染の恐怖、という現実を直視し、真剣味をもって感染防止のさまざまな啓発や留意事項を守りましょう。

今回のコロナ感染症は、一人一人の健康は直接社会の健康に繋がっていることを教えてくれています。ご家族様をはじめ、あなたの身の周りの皆さんが、共に健康な生活を送ることができることを願っています。

季節は前に進みますが、再び笑顔溢れる学校生活の再開を待っています。

愛知県立稲沢東高等学校
校　長　　河 村　禎 之